

## 全力でスポーツフェスタに取り組もう！

ようやく虫集く秋になりました。吹く風がさわやかです。学校の前庭の棗なつめの木もたくさん実をつけました。日本在来のものより、幾分大きい実です。というのも、この木は、日露戦争終結の折、乃木大将がロシアの将軍ステッセルと会見をした旅順の水師営の庭にあったものを記念に持ち帰られ、東京赤坂の自宅玄関前に植えられたものの孫だからです。20数年前の修学旅行で行った中国の大連、旅順での学びを思い出します。その時の生徒たちは今、社会人として活躍しています。

平素は、聖母の小さな学校の教育にご協力、ご支援をいただき、感謝いたしております。

今、本校の生徒たちも「スポーツフェスタ 2024」に向けて、自分の今までを振り返りながら、あの時の自分から現在の自分への変化を確認し、言葉にして表すことを、静かに黙々と続けています。

「真正面からは見たくない」と言いながら、それでも「せなあかん（しなければいけない）！」と言って、休まずに登校しています。自分の困難な状況にあった時（現在も含めて）、その長い日々を思い出し、それを目の前に置いて人と共有することは、よほど心が開けないとできないことです。「先生、（私の）こういうことを聞いて、負担にならないですか？」と、こちらを気遣いながら、自身の心の奥を開いて言葉にしていきます。心の奥にあるものとは、際限のない孤立だったり、絶望的な状況だったりします。直面するのは苦しいことです。人と出会うことがなければ「語る」ことはありません。また、人を、自分を信じるのがなければ、心の奥にあることを語り、本当の自分自身に出会うこともありません。生徒たちはこうして自分を知り、仲間と交わる力を付けてゆきます。このことは、人生の全てに通じることです。彼らが「自分は生きとっていい（生きていていい）と思えるようになった」という実感を持って今日を過ごす安心は尊いものです。

生徒は「もう少し出してみます」と言って、独自の自分で自分をつかんでいきます。そのプロセスは宝物のような価値に見えます。この体験が、スポーツフェスタの土台にあります。

今年のテーマは

心の戸を閉め切っていた。  
だんだん、こんな自分は死んだ方がいいと思った。  
暗闇の5年…  
今、生きとる気がする。  
現実が受け入れられた。  
先が見えた！



です。生徒たちは今までの歩みやその時々<sup><スポーツフェスタ準備></sup>の苦しさ、また、今の成長した姿などが十分に表現できるスポーツフェスタにしたいと頑張っています。どうぞ、ご参会くださり、励ましていただきますよう、お願いいたします。

### 《トピックス》

「広報まいつる 2018年2月号」に掲載されたように、「聖母の小さな学校」の社会的自立に向けた学びは原籍校の学習評価の対象になってきましたが、文部科学省は令和6年8月29日の通知「不登校児童生徒が欠席中に行った学習の成果に係る成績評価について」の中で、学校外の学びを原籍校で「評価すべきである」と学校教育法施行規則を改正し、告示しました。とても喜ばしく思います。本校が平成19年から京都府教育委員会の研究委託を受け、府、市町教育委員会と研究を重ね、実施してきたものです。文部科学省が述べる、成績評価をする上での懸念や疑問は、本校と市町教育委員会との実践の中でほぼ解決しています。今後においても、不登校の教育の最前線を生徒と共に歩んでゆきます。

### <今月の主な行事>

- |                             |                    |
|-----------------------------|--------------------|
| 5日（土）グラウンド整備（親子行事）          | 24日（木）英会話教室        |
| 12日（土）「スポーツフェスタ 2024」（雨天順延） | 29日（火）ウズベキスタン文化    |
| 16日（水）・17日（木）代休             | 30日（水）ギター教室        |
| 21日（月）華道教室                  | 31日（木）体育           |
| 22日（火）陶芸教室                  | 11/1日（金）お楽しみ遠足「京都」 |